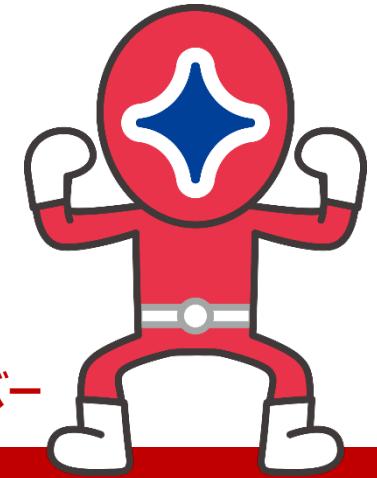


令和 6 年度 水辺活用・連携部会の取組報告



アカインバー

「水辺活用」の取組報告

スライド2

- ◆ 佐倉ふるさと広場を含む水辺拠点の一体的な整備を検討
 - 特に佐倉ふるさと広場については、活用に関するWSを実施。地域ニーズを取り込んだ計画を作成
- ◆ 印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画実施主体へのヒアリング
 - 水辺の利活用の機運が高まっている千葉市、佐倉市、八千代市に、現在の水辺の利活用状況、課題、今後の利活用に向けた意見交換等を実施
- ◆ 企業等との連携メニュー案を作成、企業ヒアリングを実施
 - 広報に関する取組報告にて説明
- ◆ 学生ボランティア団体等との協働による取組（水辺拠点の活用）

第3期の取組事項	R6年度の活動内容	2024（令和6）年										2025（令和7）年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
水辺活用連携部会の取り組み					● GEWEX(7/10)	● IVUSAとの連携(8/4)			マレーシア行政 視察団(12/12)	●		交流会 2/15	●	部会 3/3
水辺活用	① かわまちづくり計画による拠点整備・ネットワーク化	01	かわまちづくり計画の実行					ハード・ソフト施策の実行						
	② 印旛沼・流域における水辺の利活用方策の検討・実施	02	水辺拠点等がある関係市へのヒアリング（意向調査）					● 佐倉ふるさと広場活用に関するWS(8/20)			● 関係市町へのヒアリング			
		03	水辺拠点の利用促進方法の検討					活用メニューの検討						
		04	水辺拠点の利用実績の情報収集・蓄積							● 関係市町へのヒアリング				
		05	企業等の利活用促進のための意識調査							● 企業へのヒアリング				

ヒアリングを踏まえた今後の対応（案）

スライド4

＜現状と課題（主な意見）＞

利用 状況

- ・水辺を活かした**多様なイベント^①**を実施
- ・**市民アイデア**をもとにしたイベント^③も



各主体 との 連携

- ・ウォーターアクティビティ関連団体を中心に、観光協会、京成電鉄等と連携
- ・府内連携によるデジタルスタンプラリー



今後の 取組

- ・千葉うみさとラインなどの情報発信を支援
⇒印旛沼流域交流会で3市共同で発信
- ・千本桜緑地の整備・活用（千葉市）、ふるさと広場とサンセットヒルズなどの周辺施設との連携（佐倉市）、県立八千代広域公園の整備（八千代市）や河川空間の**オープン化^②**等に向けた調整が進行。



課題

- ・相互の活動を知らない^①
- ・地域のプレイヤーが少ない^{①③}
- ・海辺や周辺施設・地域との連携促進



＜対応の方針＞

方針①交流の場の継続した提供

- ・いんばぬま情報広場を核とした、各団体の活動等の最新情報を展開できる仕組みの検討。
- ・水辺の利活用を軸とした様々な団体の交流につながる場の創出。

方針②河川空間のオープン化等の かわまちづくり計画の推進 ※継続

方針③水辺の利活用事例等の紹介

- ・印旛沼流域における水辺拠点をはじめとした河川空間の利活用に必要な手続き、フロー、窓口等を実際の利活用事例の紹介を通じて周知する。
- ・いんばぬま情報広場に利活用できる場とその連絡窓口を掲載する頁を作成する。

IVUSA等と連携して実施した取組概要

スライド5

◆ 水草園の維持管理活動

- 埋土種子からの多様な水草が再生することを期待しアサザの間引き作業を実施

◆ モグリウムの設置

- 水草の系統維持の流域展開に向けたモグリウムの設置

◆ ふるさと広場周辺の清掃活動

- 周辺施設の地図を配布し、清掃活動と合わせて、ふるさと広場周辺の施設を紹介

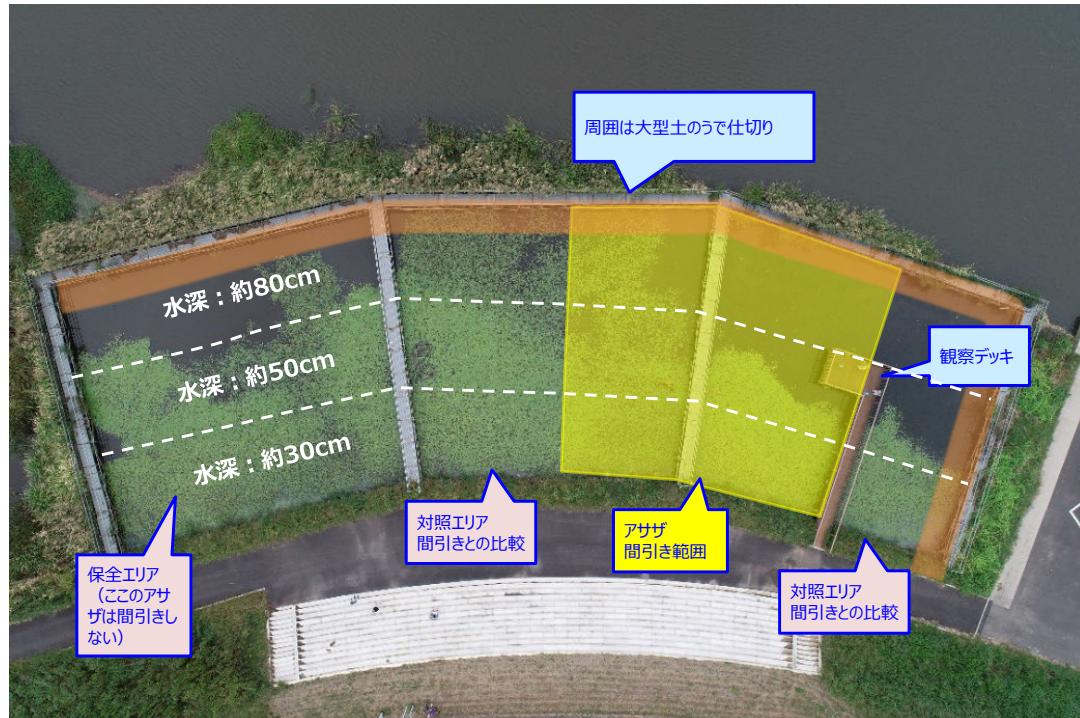
◆ ナガエツルノゲイトウ駆除作業

- 多くの団体と協力しながら駆除作業を実施



♦ 白井田水草園の維持管理（アサザの間引き作業）

- 白井田工区では、整備時は多様な水草が再生していたが、現在はアサザが水面を覆う状況となっている。**市民団体等と連携した維持管理の試行**として、アサザの間引き作業を実施
- 間引きにより、埋土種子からの多様な水草が再生することを期待して実施（例：底泥まで光が差し込みやすくなる、攪乱により埋土種子の発芽が促される等）



◆ 印旛沼モグリウムの設置

- 水草の系統維持の流域展開として、昨年度から議論のあった「印旛沼モグリウム」を設置（※モグリウムは、秋田県の取組で命名された名称であり、八郎潟モグリウムと称されている。そのため、印旛沼モグリウムという名称で今後表記）
- 中央博物館（林委員）から設置指導及び水草の提供を受け実施
- モグリウムは、NPOいんばに調整いただき、農事組合法人鹿島の敷地内（マルシェかしま）に設置させていただいた。



◆ 佐倉ふるさと広場周辺の清掃活動を実施

- 周辺施設の地図を配布し、清掃活動と合わせて、ふるさと広場周辺の施設を健全化会議事務局から紹介





モモインバー

「学び」の取組報告

スライド9

R6年度の取組概要

スライド10

- ◆ 指導案集等の動画・HPへのアクセス状況の分析
 - HPアクセス数の分析
 - ◆ 指導案集の活用や環境教育に関する教育機関等へのヒアリング
 - 北総教育事務所、学習指導課へのヒアリング
 - 庁内連携に向けた循環型社会推進課へのヒアリング
 - ◆ 中央博物館等との連携
 - 中央博物館へのヒアリング
 - イベントにおける印旛沼の昔の写真の展示

教育機関へのヒアリング結果

スライド11

■実施概要

- ✓ 北総教育事務所 指導室 首席指導主事 : 書面回答
- ✓ 千葉県教育庁 学習指導課 教育課程指導室 指導主事 : 2024(R6)年11月13日

■ヒアリングした内容

項目	主な意見
PC等の環境・勤務状況	<ul style="list-style-type: none">・学校により状況が異なるが、<u>教員がPCやタブレットなどを活用できる環境が整っている。</u>・膨大な業務量や働き方改革による勤務時間の削減等により、<u>教材研究の時間がない。</u>
授業	<ul style="list-style-type: none">・指導案集を使うことで、教員側が年間指導計画に+αとなるように感じてしまうと受け入れにくい。・<u>学習等に取り入れるメリットを感じてもらえば、指導案集を利用される可能性はあるので、印旛沼に関する内容を取り入れてもらえる仕掛けが必要</u>
学校現場での情報共有・案内の状況	<ul style="list-style-type: none">・教務主任や校長等が目を通して、<u>必要最低限のものを抜粋し、各教員に配布している。</u>・各教員の手元に届くには、<u>発信元への信頼だけなく、配布する側の負荷が少ないとや</u>活用する教員にメリットの明示が必要。
サポートのニーズについて	<ul style="list-style-type: none">・出前授業は教育課程のコマにあわせて授業に組み込める<u>ことや教員側の事前準備などの負担が少なく、教員も子供と学ぶことができ、ニーズがある。</u>・<u>調べ学習先として、印旛沼の関連データがリンクでまとめられている</u>とよい。
教員への効果的なPR方法について	<ul style="list-style-type: none">・社会科や理科の担当教員向け等ターゲットを絞ったPRができるとよい。・<u>教員から見て印旛沼の環境学習を行うことのメリットが明確にあり、使ってみたいと思える</u>が重要・<u>環境教育の支援方策のパッケージの1つとして指導案集をPRしたほうがよい</u>

＜対応の方針＞

目的①授業に取り入れてもらう

- 日常業務で忙しい教員方にも活用してもらうことを目的に、指導案集の活用が教員個人の負担にならないような対応策を実施する。

目的②関心の高い教員個人に知ってもらう

- 指導案集の活用が特に期待できる教員に知つてもらうことを目的に、ターゲットを絞ったPRを実施する。

目的③より多くの教員に知ってもらう

- 教員個人に情報が届いていないため、認知度が低い。そのため、広く知つてもらうことを目的に、対応策を実施する。

＜対応メニュー（案）＞

1. 環境学習の支援メニューの一体的なPR

- ちば環境学習応援団事業と連動したPRチラシの作成・配布
- “いんばぬま情報広場”による環境学習のツールとなる情報の提供（指導案集、環境学習となる拠点等）
- 教員向け研修会の動画やモデル校における出前授業の動画紹介（可能なものを限定公開）

2. いんばぬま情報広場のリンク構成の見直し

- 教員向け、子供向け等のトップページの構成見直し
- 調べ物学習の活用を見据えたデータ・資料ページの構成
- 指導案集の教科別のリンクなど整理
- 情報リンク集の整理・更新

3. 指導案集チラシの見直し・改善

- 教員にとってのメリットの打ち出し、各教科別の見るべき場所へのQRコードの掲載
- 各校への教員数にあわせた配布

4. 教員研修の場でのPR

- 2025年7月30日に予定されている環境学習に関する研修における指導案集のPRの実施
- 教頭・校長、教務主任、関連性の高い科目の担当教員向けの研修の場でのPR

中央博物館と連携し、印旛沼をフィールドとした環境学習の実施方法について協議

◆ 実施状況

➤ 2024(R6)年7月3日、10月1日

◆ 協議での主な意見

項目	主な意見
連携について	<ul style="list-style-type: none">博物館は地域課題に貢献する役割を有しているため、<u>健全化会議との連携は前向きに実施していきたい。</u>
連携可能な内容	<ul style="list-style-type: none">植生帯整備箇所を回るツアーは過去にも実施しており、これを再開することから始めることもよい<u>印旛沼の古い写真をたくさん提供いただくことができ、権利関係の整理もできたため、広く使っていくことができる。活用して欲しい。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none">ツアーについては、旅行業の登録をしていないので博物館が主催で公募した<u>バスツアーは実施できない。旅行会社等に入らうことが必要。</u>一般公募ではなく、<u>ある市民団体のツアーに博物館が講師として参加する等の形を作る必要がある。</u>



「広報」の取組報告

スライド14

R6年度の取組概要

スライド15

- ◆ NPOいんばと連携した流域交流会の実施（2/15）
 - ◆ 流域市町のイベントへの出展 エコメッセ(10/20)、佐倉産業大博覧会(11/9-10)
 - ◆ 全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議への参加(GEWEX) (7/10)、マレーシアの行政視察団への説明(12/12)
 - ◆ 民間企業等との連携に向けた取組
 - 学生ボランティア団体との協働による取組
 - 企業等と連携した八代 1 工区によるかいぼり作業の実施
 - 統維持の展開に向けた連携メニュー案の作成・連携先の摸索

NPOいんばと連携した流域交流会の開催

スライド16

- ◆ 実施日：2025(R7)年2月15日
- ◆ 場所：イオントウンユーカリが丘 イオントウンホール
- ◆ 企画内容
 - オープニングトーク
高橋委員、河川環境課吉田副主査による対談形式でのトーク
 - いんばぬまピッチトーク (42団体+飛込参加)
参加団体から、「何をしているか」「何ができるか」「皆さんができる機会」の3つの事項を中心に自己紹介
 - パネル等の展示 (35団体程度)
活動に関するパネルやチラシ等を展示
- ◆ 事前申込団体：個人含め42団体
- ◆ 参加者数：90～100人程度
- ◆ ピッチトークやパネル展示内容をきっかけに多くの交流が見られた



NPOいんばと連携した流域交流会の開催

スライド17



- ♦ 実施日：2024(R6)年10月20日
- ♦ 場所：幕張メッセ
- ♦ 健全化会議としてブース出展
- ♦ 展示内容
 - 健全化会議の取組紹介
 - 印旛沼クイズ
 - シールラリー
 - 各流域市町の活動紹介
(デジタルサイネージ)
- ♦ ブース来場数：600人



エコメッセ：展示内容

スライド19

♦ 印旛沼クイズ (R5から実施)

- パソコン操作で、健全化会議の取組に関するクイズゲーム
 - 遊びながら、印旛沼のことを知ってもらうような企画
 - 子ども向けと大人向けを作成

◆ シールラリー

- 健全化会議に関する出展団体との協力のもと実施（県庁関係課：8団体）
 - 各ブースを周り、そのブースの取組内容等を聞いてもらうとシールがもらえて、5つ集めると健全化ブースで景品を交換できる企画
 - 健全化関係の色々なブースにできるだけたくさんの人々に足を運んでもらうためのしかけとして実施

♦ デジタルサイネージによる取組紹介

- 健全化会議だけでなく、流域市町から情報を募り、一緒に取組紹介を実施



佐倉産業大博覧会：概要

スライド20

- ♦ 実施日：2024(R6)年11月9-10日
- ♦ 場所：佐倉草ぶえの丘
- ♦ 健全化会議としてブース出展
- ♦ 展示内容
 - 健全化会議の取組紹介
 - 印旛沼クイズ
 - シールラリー
 - 各流域市町の活動紹介
(デジタルサイネージ)
 - ミニ印旛沼モグリウム
(モグリウムの実物を展示)
 - 昔の印旛沼写真の展示
- ♦ ブース来場数：1,200人
(延べ人数)



佐倉産業大博覧会：展示内容

スライド21

- ◆ 印旛沼クイズ
- ◆ デジタルサイネージによる取組紹介
- ◆ シールラリー

- 健全化会議に関係する出展団体との協力のもと実施（関係者：10団体）
- 実施方法はエコメッセと同様

◆ ミニ印旛沼モグリウム

- モグリウムの実物を展示

◆ 昔の印旛沼写真の展示

- 中央博物館所蔵の昔の印旛沼写真を展示

※中央博物館に市民の学びの機会を作るための連携の協議をした際に博物館から昔の印旛沼の写真の使用許可をいただいた（1,000枚近くの写真がある）。

今後、様々な機会で活用を検討していければと考えている。



- ◆ 企業等と連携した八代 1 工区によるかいぼり作業の実施
- ◆ 系統維持の展開に向けた連携メニュー案の作成・連携先の模索（水環境部会と連携）

企業等と連携した八代1工区によるかいぼり作業

スライド23

【概要】

日 時：2025(R7)年2月11日～13日

実施場所：八代1工区

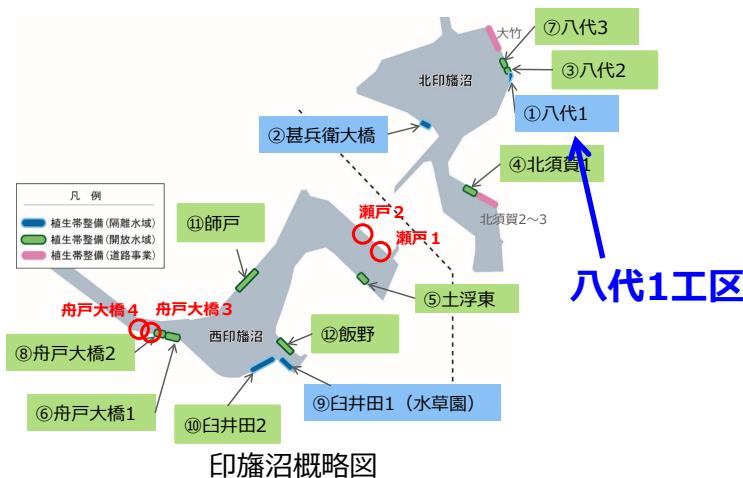
実施目的：底泥の一部除去を行い、沈水植物の多様性を回復すること

参加団体：国立環境研究所、東京大学、千葉県立中央博物館、竹中工務店、IVUSA（学生ボランティア）、NPOいんば、事務局

備 考：東京大学の研究の取組みと連携して実施



↓
波板及び土嚢で囲った区画の底泥を除去



かいぼり 実施概要

スライド24

当日の様子



◆ 取組の狙い

- 流域水循環の取組をより広く展開していくためには、多くの関係者との連携が必要で、企業も重要なステークホルダーとなる。
- そこで企業とどう連携して、どのような取組を展開すればよいか、検討を行った。

◆ 実施事項

- 企業との連携メニューの作成
 - 具体的に健全化の取組と企業との連携メニューを作成、企業向けの説明資料を取りまとめた
- ヒアリングの実施
 - いくつかの企業に実際に作成した資料を使って説明を行い、連携の可能性について意見を伺った（3社）
 - 実施した1社は、すべてのメニューに強く賛同いただき、印旛沼モグリウムの設置について、具体的に話を進めることとなり、実行中である

取組メニュー例

スライド26

目的

- 地下水涵養量の保全・回復
- 面源負荷量の低減

取組メニュー例

1

雨水浸透機能の向上

2

谷津・斜面林の整備

3

湖岸植生帯の保全・再生

4

水草の生息域外保全
(印旛沼モグリウムPJ)

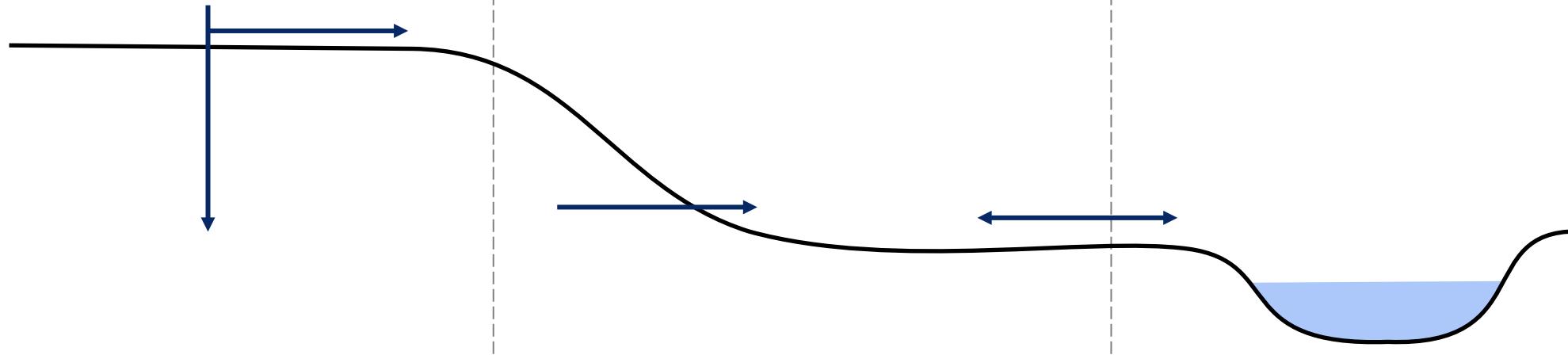
5

印旛沼・流域ツアーへの参加
(事業活動と印旛沼の水循環との関係を知るツアー)

台地

斜面林・谷津・低地

河川・沼



■ ヒアリング対象企業

A社：IT企業、B社：交通関係企業、TOAシブル：産業廃棄物収集・処理企業

■ ヒアリング趣旨

企業連携メニュー（案）を提示し、関心があるメニューや連携に向けたハードルについて所感を伺った。

■ ヒアリング結果

・企業の特徴や背景により、関心を持つメニューが異なることや企業の本業との関係をもたせる重要なことがわかった（シナジー効果を生むような連携にはオーダーメイド的に連携体制を作っていく必要がある）

A社	B社	TOAシブル
関心があるメニュー	<ul style="list-style-type: none">✓ ツアーへの参加や市民団体の活動への参加は、地域貢献の部署として単独で対応が可能であり取り組み易い。✓ 雨水浸透については、建築チームが水循環をテーマに積極的に取り組んでいるため関心がある。	<ul style="list-style-type: none">✓ 本業と関連する部分として、伐採した竹のバイオ炭化が挙げられる。
連携への期待・動機	<ul style="list-style-type: none">✓ 地域連携については現在摸索中の段階であり、メニューを提示いただけることはありがたい。	<ul style="list-style-type: none">✓ 自社の事業活動エリアは印旛沼流域と重複があることから、何かしら連携したい思いがある。
連携に向けた課題		<ul style="list-style-type: none">✓ 本業として取り組める部分でないと検討が難しい。

TOAシブルは、取組メニューに強い関心を示していただき、以下の取組メニューの実現に向けた検討が始動している。

■ 実現に向けて検討を行っているメニュー

4

水草の生息域外保全（印旛沼モグリウムPJ）

■ 検討状況

- ✓ 2025年2月10日に、千葉県中央博物館 林氏と共に、印旛沼モグリウムの設置に向けた協議・現地視察を実施した。
- ✓ 協議の結果、印旛沼モグリウムの設置を前向きに検討いただくことになった。
- ✓ また、さらに、事業活動から出る使用済みドラム缶を水槽として活用する案や自主整備したビオトープを改良、水草を移植する案も出て、実施に向けて検討いただくことになった。



設置予定箇所（社屋屋上）



水槽としての活用案が出たドラム缶



TOAシブル自主整備のビオトープ

■ ヒアリングを踏まえて、今後の企業との連携を進める上で必要と考えられる事項

検討事項	検討内容
01. 企業との調整を行う体制整備	✓ 複数社からの探索的な問合せに対応するための体制を確立 ✓ 効率的・効果的に対応するためには、説明資料の作成、連絡窓口の明確化、中間支援組織との連携体制構築が有効
02. 企業のニーズ把握と連携による効果の整理	✓ 企業の取組による効果を説明するロジック・データを整理
03. 企業の参画を促す情報発信・企画	✓ 企業が取組に参加したくなるような情報発信の実施
04. 企業からの資金提供の受け皿	✓ 資金提供という形で参画したい企業向けに資金の受け皿を用意
05. 企業受入れマニュアルの作成	✓ 企業による取組への参画方法別に、企業にとってのメリット、コスト感、安全管理等の事項をマニュアルとして取りまとめ、企業連携を一定程度定型化
06. 取組の進捗のレポート	✓ 企業による継続的な参画を促すために、取組の進捗を分かりやすく発信する

■ 水環境部会での今後の取組の方向性

- ・植生帯整備箇所での維持管理や印旛沼モグリウムの展開に向けて、取組がマッチしそうな企業風土を持つ企業へのヒアリングを実施、連携を模索
→例：既に沈水植物の域外保全を実施している企業や植物に関する事業を実施している企業



■ 水辺活用・連携部会での今後の取組の方向性

- ・企業等とにマッチングや企業等が参加しやすいような仕組みづくり、取組促進するための情報提供

次年度の取組方針

スライド30

令和7年度の水辺活用・連携部会での取組予定

スライド31

水辺活用

- ◆ 印旛沼・流域における水辺の利活用方策の検討・実施
 - 水辺の利活用を軸とした交流の場の継続した提供【広報と連携】
 - 河川空間のオープン化等のかわまちづくり計画の推進 ※継続
 - 水辺の利活用事例等の紹介

学び

- ◆ 小中学校等での印旛沼学習の実施
 - 環境学習の支援メニューとの一体的なPR
 - いんば情報広場のリンク構成の見直し
 - 指導案集チラシの見直し・改善
 - 教員研修の場でのPR
- ◆ 市民への印旛沼の学びの場の提供
 - 環境学習に取り組む団体や、中央博物館、市町等との連携（[水環境部会と連携](#)） ※継続

広報

- ◆ 健全化の取組や印旛沼の魅力を発信する広報の充実
 - 健全化HPの改訂検討 ※継続
 - モグリウム等を始めとしたコンテンツを活かした広報活動
- ◆ 印旛沼・流域をフィールドとする団体等の活動に焦点を当てた広報や交流の場の創出
 - 交流の場の継続した提供【水辺活用とも連携】
 - 流域水循環健全化の取組と企業の連携のあり方の検討（[水環境部会と連携](#)） ※継続
- ◆ ウィズコロナ・ポストコロナ時代のイベントのあり方の検討
 - 流域市町や関連団体のイベントへの出展・広報 ※継続

計画

- ◆ 第4期での取組内容・取組指標・推進体制の検討
 - 第4期行動計画期間（R8～12）に実施する取組内容や取組指標及び推進体制等の検討